

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	周南子どもゆめまつり開催事業費	担当所属	熊) 地域政策課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	1 教育・子育て	事業期間	～
基本施策	3 子供の健全育成	会計種別	一般会計
推進施策	(3) 青少年の社会参加の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	市民
	意図	子どもから大人までの市民ネットワークを広げ、市民の一体感を醸成する
	成果	熊毛地域から発信する周南市のまつりとして多数の参加者を集めている。
	手段	ゆめプラザ熊毛周辺を会場として、こどもを主役とした体験型のイベントを開催する

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	参加者数の拡大	目標値	人	10000	12000	10000
		実績値	人	12000	10000	10000
		目標達成度	%	120.00	83.33	100.00
指標②		目標値				
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算
トータルコスト	千円	4,310	3,816	6,669	6,309	6,309
事業費	千円	500	500	500	500	500
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	受益者負担	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	500	500	500	500
人件費合計	千円	3,810	3,316	6,169	5,809	5,809
正職員	千円	3,810	3,316	6,169	5,809	5,809
人員	人	0.520	0.450	0.840	0.800	0.800

【環境変化等】

開始時の周辺環境	「子どもが主役のまつり」として、当初は地域巡回型のイベントとして開催されていたが、平成21年度からは熊毛地域で開催する周南市全体のイベントという位置づけで開催している。
現状の周辺環境	市民のみならず市外からの来場者も増え、本イベントに対する関心の高さが窺える。
今後の予想される周辺環境	更なる事業の充実に向け、限られたスペースの有効活用の検討が求められる。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
周南子どもゆめまつり実行委員会と市が主催して行うイベントである。		
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
子どもに特化したイベントとして定着している。		
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である
参加者数が実態を反映しているかどうか確認しておく必要がある。		
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた
例年通りの来場者があり当初の目的は達成された。		
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた
来場者は、概ね目標どおりであった。		
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた
ジュニア実行委員や中高生ボランティアが参加し、まつりを作り上げていく中で様々な世代との交流が図られている。		
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
子ども中心のイベントとして、更なる内容の充実を図る		
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	B	削減余地が考えられる（中小程度）
実行委員会各委員の英知を結集し、コスト削減を図る中で来場者がさらに楽しめるプログラムを検討する		
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
子どもに特化した内容で、他のイベントと差別化が図られている。		
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である
例年どおり多くの方に来場いただいております、市民が求めるイベントとして展開できている。		

【総合評価】		
評価	A	青少年の健全育成のためのまつりであり、熊本地域のみならず、周南市の子どもまつりとして継続するために、効率的な運営に努めている。

【改革案】

今後の実施方向性 拡充		期待効果			
子どもに特化した市のイベントとして、更なる内容の充実を図る。		成果	コスト		
			削減	維持	増大
改革効果（どのような効果が期待できるか）		上昇		○	
		維持 縮小			
イベントを通じた市民間の交流による地域づくりと参画する中高校生の人材育成					

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	高水ふれあいセンター管理運営事業費	担当所属	熊) 地域政策課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	3 地域づくり	事業期間	～
基本施策	1 地域コミュニティの活性化	会計種別	一般会計
推進施策	(1) 住民主体の地域づくりの促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	地域住民
	意図	高水ふれあいセンターを管理・運営し、地区住民の地域活動を支援する。
	成果	地域のコミュニティ施設としての役割を果たす
	手段	高水ふれあいセンターの運営 高水ふれあいセンター本館・入浴館の維持・管理 通学合宿の実施やコミュニティ行事の支援

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	利用件数	目標値	件	500	500	500	0
		実績値	件	442	399	421	-
		目標達成度	%	88.40	79.80	84.20	-
指標②		目標値					-
		実績値					-
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	8,404	8,064	8,115	8,733	7,946	
事業費	千円	5,840	5,485	5,251	5,974	5,405	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	601	514	476	505	629
	その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	5,239	4,971	4,775	5,469	4,776
人件費合計	千円	2,564	2,579	2,864	2,759	2,541	
正職員	千円	2,564	2,579	2,864	2,759	2,541	
人員	人	0.350	0.350	0.390	0.350	0.350	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	平成29年度までは、高水公民館と一体的に管理運営するために、教育委員会（生涯学習課）で管理を行っていた。
現状の周辺環境	高水公民館の市民センター化に伴い、平成30年度からは地域のコミュニティ施設として地域政策課で管理している。
今後の予想される周辺環境	地区の高齢化や過疎化により、入浴館利用者の減少が予測される。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）	
評価	B 現段階では妥当である 地域コミュニティの推進を進めるために必要な施設である。
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）	
評価	B 現段階では妥当である 地域活動を進めるため、当該施設の存在意義は大きい。
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）	
評価	B 現段階では妥当である 開館当初から一定数の方々に利用いただいている。
【有効性評価】 4. 計画の実施状況	
評価	B 概ね実施できた 地域住民のニーズに沿った管理運営に努めた。
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度	
評価	B 概ね達成できた 目標値と比較して8割強の利用者となっている。
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度	
評価	B 概ね貢献できた 地域のコミュニティ施設として、適切な管理運営に努めた。
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	
評価	B 向上余地が考えられる（中小程度） 入浴館について、一定程度の利用は認められるが、施設利用の拡大に向けた啓発活動に努める必要がある。
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み	
評価	B 削減余地が考えられる（中小程度） まずは、利用者の入館時間など詳細な利用状況の分析が必要である。
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討	
評価	B 類似事業はあるが、統合・代替は困難 将来的な類似事業との統合・代替については、建設に至った経緯を踏まえ慎重に対応する必要がある。
【効率性評価】 10. これまでの実施手段	
評価	B 見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり） 利用促進に向けた取組を進めることにより、施設の入館者の拡大を図る余地がある。

【総合評価】	
評価	B 今後の施設の在り方については、建設に至った経緯を踏まえ慎重に対応する必要がある。

【改革案】

今後の実施方向性	維持	期待効果			
施設の普及啓発など、利用者拡大に向けた取組を進める必要がある。	成果	上昇	コスト		
			削減	維持	増大
		維持	○		
縮小					
改革効果（どのような効果が期待できるか）					
地域コミュニティの活性化					

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	熊毛総合支所管理運営事業費	担当所属	熊) 地域政策課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	9 行政経営	事業期間	平成15年度 ~ 永年
基本施策	2 将来を見据えた行政経営	会計種別	一般会計
推進施策	(4) その他	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	ゆめプラザ熊毛（図書館を除く）及び熊毛総合支所
	意図	市民に安心・安全なサービスが提供できるよう、施設の適切な維持管理を行う
	成果	熊毛地域における市の総合的な行政サービスの提供拠点としての機能を発揮する
	手段	ゆめプラザ熊毛（図書館を除く）及び熊毛総合支所庁舎の維持管理

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	施設管理経費削減	目標値	千円	23942	24702	26443	36044
		実績値	千円	21835	23412	23984	-
		目標達成度	%	91.20	94.78	90.70	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	45,467	39,813	44,710	51,140	58,117	
事業費	千円	20,262	21,835	23,412	23,984	36,044	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	165	242	166	181	152
	その他	千円	6	6	281	177	195
	一般財源	千円	20,091	21,587	22,965	23,626	35,697
人件費合計	千円	25,205	17,978	23,337	29,251	23,802	
正職員	千円	25,205	17,978	21,298	27,156	22,073	
人員	人	3,440	2,440	2,900	3,040	3,040	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	現在の建物は平成13年5月に旧熊毛町庁舎として供用を開始したもので、平成15年4月の合併により周南市熊毛総合支所となり、平成21年度には複合施設「ゆめプラザ熊毛」としてリニューアルした。
現状の周辺環境	平成31年4月に熊毛総合支所部分のワンフロア化を実現した。
今後の予想される周辺環境	経年劣化に伴う施設の老朽化

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）	
評価	A 妥当である
地域における行政サービス提供の中心的施設である。	
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）	
評価	A 妥当である
熊毛地域の行政サービス提供拠点施設として安心安全な施設の維持管理に努めることは重要である。	
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）	
評価	A 妥当である
引き続き、施設の効率的な管理に努める。	
【有効性評価】 4. 計画の実施状況	
評価	B 概ね実施できた
住民サービスの向上に向け、各職員が適切な接遇及び維持管理に努めた。	
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度	
評価	B 概ね達成できた
省エネルギーに努め、維持管理経費の削減を進めた。	
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度	
評価	B 概ね貢献できた
熊毛地域における住民サービスの提供拠点としての機能が発揮できた。	
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	
評価	B 向上余地が考えられる（中小程度）
更なるサービスの向上を図り、来庁者の満足度を高めていく	
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み	
評価	B 削減余地が考えられる（中小程度）
効率的な管理を行うことにより管理経費の低減に努める	
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討	
評価	B 類似事業はあるが、統合・代替は困難
ゆめプラザ熊毛の貸館部分については、市民センター等の類似施設があるが、近隣住民等の定期利用があり、他の事業との統合や代替は困難である。	
【効率性評価】 10. これまでの実施手段	
評価	A 最適である
最小限の経費で最大限の効果を上げるため、これまでの取組みを進める。	

【総合評価】	
評価	B 熊毛地域における行政サービスの最前線として、機能の維持、向上に努めている。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果			
市民に最善のサービスが提供できるよう、引き続き施設の適切な維持管理を行う。		成果	コスト		
			削減	維持	増大
改革効果（どのような効果が期待できるか） 市民満足度の向上		上昇			
		維持 縮小	○		